

## 反転が生み出す“実践”論文執筆のブレークスルー ーディスカッションベースの論文投稿ファシリテーションー

オーガナイザ：小西 達裕（静岡大学），光原 弘幸（徳島大学）

JSiSE 学会誌編集委員会ではこれまで、全国大会プレカンファレンス企画として、チュートリアル“編集担当委員が語る JSiSE 論文投稿入門”を実施してきました。

チュートリアルコンテンツ（解説資料やビデオ） <http://www.jsise.org/journal/tutorial.html>

- 論文投稿から掲載までの流れ、投稿に際しての注意
- 論文種別と採録基準ー現状と改訂の方向性ー
- 査読の観点と査読コメントに対する対応のノウハウ
- 教育現場の取り組みを実践系論文にまとめるには

そして昨年度、これまでのチュートリアルコンテンツを有効活用し“反転”を取り入れたディスカッションベースの論文投稿入門を実施しました。新しい試みではありましたが、参加者が編集委員と執筆上の悩みや解決策について議論し、執筆のヒントを得られる有意義な企画であったと思っています。

今年度も引き続き、反転+ディスカッションベースの論文投稿入門を実施します。特に今年度は、本会誌の特徴でもある実践論文に焦点を当て、実践論文投稿をしたことが無い方、研究をまとめたのだが実践論文として求められるレベルがよくわからないという方、実践研究を進めるうえでのポイントやヒントが得たい方のほか、実践論文査読の考え方を整理したい方を主な対象としたいと思います。

本会誌への論文投稿を検討しており、論文執筆について編集委員（Adviser）から直接アドバイスをもらいたい方（Advisee）には、

- 事前にチュートリアルコンテンツを閲覧していただいた上で
- チュートリアル当日、投稿検討中の研究内容や論文執筆での悩みをプレゼンしていただき
- 学会誌編集委員と個別に議論して、論文にまとめる上での悩みの解決につなげていただきます

Advisee には事前に参加希望を提出していただきます（希望多数の場合は学会誌編集委員会で選定させていただきます。また、事前に発表スライドなどの資料をご提出いただく場合もございます）。また Advisee でない方のご参加も歓迎いたします。レスポンスシステム、コメントペーパー等を使って Advisee の質問にご意見をいただいたり、編集委員への関連質問をしていただくことを予定しています。また単に Advisee のプレゼンや編集委員との議論を聴講していただくだけでも、ご自身の論文執筆に役立つと考えます。学生や若手研究者をはじめとした多くの方にご参加いただければ幸いです。

**eポートフォリオを活用したエビデンスに基づく人材育成教育の質保証****(パネルディスカッション)**

オーガナイザ：西野和典（九州工業大学），宮浦崇（九州工業大学），林朗弘（九州工業大学）

社会の期待と要請に応じた人材育成は、教育機関としての大学の使命のひとつであり、卒業時の質保証という形でその実効性が強く求められている。卒業時の質は、育成された人材の社会的な評価に本来裏打ちされるべきものであり、その実践には、十分な双方向的対話によって、社会からの評価や要請が人材育成教育に反映・実現できることが求められる。その前提として、内部質保証システムが機能しているもとで実践された大学教育の教育成果を社会に広く開示し、対話によって社会的評価を引き出す仕組みは不可欠であり、このための経験論的教育論や根拠なき社会的言説に依らない、エビデンスベースでの対話材料を示す努力が大学側に求められる。本プレカンファレンスでは、eポートフォリオシステムとそこに蓄積される学生の学修履歴データを活用したエビデンスベースの質保証や、学修・教育情報に基づく人材育成教育における社会的対話について、話題提供するとともに実現可能性や課題等を議論する。

司会：宮浦 崇（九州工業大学）

## パネリスト

1. 林 朗弘（九州工業大学）
2. 星野聡孝（大阪府立大学）
3. 喜多敏博（熊本大学）
4. 山川広人（千歳科学技術大学）

## 学習者中心のプログラミング学習環境の開発と評価 (ワークショップ)

オーガナイザ：鈴木聡（大阪経済法科大学），立岩佑一郎（名古屋工業大学）

本ワークショップは、学習者がすでに持つ知識・技能・経験を生かしながら、他者との相互作用の中で学習内容の理解を深められるプログラミング学習環境の開発と評価をテーマとします。

学習とは知識を持つ者（教員など）が持たざる者（学習者）へ一方的に知識を伝達し、学習者が受け入れることによって成り立つものと考えられてきました。しかし、人間の学習の過程についての研究が進むにつれ、「学習とは個々の学習者が既存の知識・技能・経験などを生かし、教員や他の学習者などの他者との相互作用も踏まえつつ自分の方法で知識を構築することである」と捉える学習観が重要であるという認識が広まり、この考え方をもとにした学習環境の開発・評価が様々な分野で展開されています。また、今後の社会で求められる知識・技能を見据えながらの学習環境の構築が必要なことは言うまでもありません。情報教育も例外ではなく、学習者中心の観点から、今後必要とされる知識・技能を示しつつ学習環境を組み立てる必要があります。

本ワークショップでは情報教育の中でも、とりわけ日常生活の中の ICT 環境の浸透が進み多様かつ膨大なデータの蓄積が進む社会において重要視され、今後学校教育において重点的に行われると予想されるプログラミング教育に焦点を当て、プログラミング教育を通して身につけることが望ましい知識・技能について論じながら、学習者の既存の知識・技能・経験を前提として学習内容の理解を促す試みや、他者との相互作用の中で学習内容の理解を深めるための協調学習環境の構築の試みを紹介し、その評価手法も含めて議論する場にします。

本ワークショップでは以下の内容の話題提供を予定しています。

鈴木聡（大阪経済法科大学）「ペアプログラミングの教育への導入：学習環境の開発・評価の現状と今後の展望」

立岩佑一郎（名古屋工業大学）「ペアプログラミング演習システム DIPES」

山住富也（名古屋文理大学）「e-Learning 教材を用いた Web プログラミングの反転授業」

津森伸一（聖隷クリストファー大学）「Excel VBA を用いたプログラミング授業の実践と課題」

長谷川信（岐阜聖徳学園大学）「語学教育とプログラミング」

吉根勝美（南山大学）「社会科学系におけるプログラミング教育」

野崎浩成（愛知教育大学）「『プログラミングを学ぶと論理的思考力が身につく』って本当か？  
ー形式陶冶・実質陶冶論争再びー」